

## 2020 前期授業アンケート「学習状況用」結果概要

教学 IR 室

### ■ 本アンケートの位置づけ

- ・ 2019 年度より、「授業評価アンケート」は「授業アンケート」とし、「学習状況用」と「授業実践用」の二種類となった。
- ・ 「学習状況用」は科目レベルの教育改善の証拠（エビデンス）とするためのものであり、全ての科目（非常勤講師担当科目も含む）で、コースの中間地点で実施するものである。
- ・ 当該科目における「学習で困難に感じていること」「目標を達成するための今後の学習」「授業時間外学習の程度」などを、量的・質的に捉えたうえで、各科目担当教員がそれぞれの判断をもって、その期における授業の改善や、学生との対話を目指して構成されたものである。学生の価値判断からその授業の良し悪しを議論するためのものではない。
- ・ シラバスを学生が再確認し、学生の状況を形成的に評価するものであるため、適切に実施されており、それに教員が対応していれば、科目レベルの教育改善 PDCA の有力なエビデンスとなる。
- ・ 本アンケートは、中間地点の平均的な結果よりも、これをもとにどのように各教員が対応したのかが重要になる。ただし、回答率や学習時間に関しては、本報告の平均的なデータからその多寡をもとに議論することは有益ではなかろうか。
- ・ また、新型コロナウイルスの影響により、2020 年度は遠隔授業を基本として各授業を実施することとなった。これを受け、本アンケートにおいても遠隔授業関連の項目を追加することとなった。その分析結果は、各教員が今後の遠隔授業環境下での授業の実施方法を再考するための資料となることを意図している。

### ■ 設問内容

1. 学籍番号
2. 氏名

（量的項目）※特に注がない場合：1→全く当てはまらない：6→非常によく当てはまる〈6 件法〉

3. この授業の目標を達成するために自分が取り組まなければならないことをよくわかっている
4. この授業が何に役立つのかをよくわかっている
5. この授業の内容は今のところしっかり理解できていると思う
6. この授業中の活動に集中して取り組んでいる
7. この授業の内容を理解するために授業時間外にも関連する学習をしている
8. この授業で学んでいる内容をさらに深く学びたいと考えている
9. この授業で 1 回あたりどのくらいの時間の予習をしましたか  
※1→0 分、2→30 分未満、3→30～60 分、4→60～90 分、5→90 分以上
10. この授業で 1 回あたりどのくらいの時間の復習をしましたか  
※1→0 分、2→30 分未満、3→30～60 分、4→60～90 分、5→90 分以上
11. この科目で授業時間中に、Web 会議システム（Zoom や Meet）を通じてリアルタイムで教員が解説を

するのはどれくらいの割合でしたか。大まかにかまいませんので、一番近いものをお選びください。

※0～20%、20～40%、40～60%、60～80%、80～100%

12. この授業において授業時間外で行う課題に対して、負担を感じている
13. この授業内容に関する教員とのコミュニケーションや質問等を積極的に行っている
14. 上記 Q13 の質問で「1」または「2」を選択した人はその理由を下記から選んでください。  
※ 1→質問の必要性を感じなかった、2→オンライン上で質問しにくかった、3→その他
15. この授業内容に関する学生同士のコミュニケーションを積極的に行っている  
(以下質的項目)
16. これまでこの科目の学習に関して、内容的な理解の面で困難を感じていることはありますか
17. これまでこの科目の学習に関して、内容的な理解以外の、環境的な困難はありましたか
18. この科目の学習をするにあたって、対面に比べてオンラインが適していると思ったことがあればお書きください。
19. この科目の学習をするにあたって、対面に比べてオンラインが適していると思ったことがあればお書きください。

■ 量的項目の科目種・学科別平均値（例年と同項目）

科目種等	対象学科	回答率	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	全体 平均
基礎科目	全学科	44.3%	4.56	4.44	4.08	4.68	3.31	3.65	1.93	2.32	3.62
専門基礎科目・専門科目	看護学科	40.4%	4.93	5.21	4.53	5.03	3.90	4.63	2.18	2.68	4.14
	理学療法学科	46.7%	4.89	5.06	4.31	4.83	3.69	4.33	1.96	2.49	3.95
	作業療法学科	25.9%	4.68	4.86	3.89	4.57	3.25	4.08	1.82	2.10	3.66
	臨床工学科	9.9%	4.80	4.82	4.40	4.76	3.99	3.96	1.72	2.31	3.85
	複数学科	46.8%	4.74	4.97	4.25	4.78	3.64	4.29	1.81	2.37	3.86
	全学科合計	31.3%	4.83	5.00	4.34	4.83	3.72	4.30	1.94	2.41	3.92
大学院の科目	全学科	10.7%	5.00	5.00	5.00	5.00	4.80	5.00	2.80	3.40	4.50

■ 量的項目の科目種・学科別平均値（遠隔授業関連の追加項目）※設問 14 は各選択肢を選択した割合

科目種等	対象学科	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14-1	設問 14-2	設問 14-3	設問 15
基礎科目	全学科	-	2.85	2.65	65.3%	19.2%	19.6%	2.94
専門基礎科目・専門科目	看護学科	-	3.08	2.71	63.2%	24.3%	20.0%	3.19
	理学療法学科	-	3.10	2.95	61.5%	18.3%	24.6%	3.37
	作業療法学科	-	2.96	2.98	60.2%	20.9%	22.7%	3.30
	臨床工学科	-	3.39	2.41	49.7%	40.2%	16.2%	3.52
	複数学科	-	2.86	2.68	65.9%	25.2%	14.2%	2.87
	全学科合計	-	3.17	2.77	60.5%	23.3%	21.9%	3.39
大学院の科目	全学科	-	3.80	4.80	-	-	-	5.00

## ■ 量的項目における改善に向けた方向性

- ・ 量的項目においては上記のように、それぞれの項目で科目種や学科ごとの平均値を算出した。ただし、これらはいくまで平均値であり、科目の中には6に近い値を出した科目もあれば、1に近い値を出した科目も存在する。各教員には、上記の平均値と自身の科目における各項目の値を比較することで、自身の授業科目の改善の方向性について考えるきっかけとしていただきたい。
- ・ また、各学科やFD委員会等の組織的な単位においては、全体の傾向を把握することで、今後の改善策を考える際の資料として役立てることができるのではないだろうか。例えば、設問13の「この授業内容に関する教員とのコミュニケーションや質問等を積極的に行っている」はいずれも得点が低く、教員とのコミュニケーションが積極的に行われていないことが示唆される。これは続く設問14において「質問の必要性を感じなかった」と回答した割合が約6割であったことも関係しているであろうが、逆に約4割の学生は質問の必要性を感じていたが質問できない状況であったと推察される。「オンライン上で質問しにくかった」を約2割の学生が選択していることから、遠隔授業が中心でコミュニケーションがとりにくい現状ではあるが、授業形態に関係なく、質問したいときにいつでも質問できる環境づくりが今後の全体的な課題となりそうである。

## ■ 質的項目における改善に向けた方向性

- ・ 位置づけで述べたように、各担当教員が学生の状況を把握しながら、対応を考えるものであるため、一概にこのような対策が有効であるとはいえない。しかしもし、担当教員が学生の声をひろって、対応がしたくてもそれが難しいようなものがあれば、それをFD委員会等で共有し、対応策などを話し合えば、実質的な科目レベルのFDのエビデンスとなり得るだろう。
- ・ 以下のものは、設問16「これまでこの科目の学習に関して、内容的な理解の面で困難を感じていることはありますか」に対する学生の記述の代表例と、それへの対応策に関する教学IR室のコメントである。参考までに提示したい。
  - ◇ 「覚えることが多すぎて覚え切れていない」→2020年度よりLMSのmanabaが導入された。manabaの小テスト機能を使った予習復習や、コースコンテンツへの解説動画のアップロードなどを行うことで、知識の獲得や定着、深い理解を促せるかもしれない。
  - ◇ 「○○の内容が難しく理解できていない」→アンケート結果から理解が困難な内容を特定しmanaba上で資料を追加するなど、学習リソースの補填による対応が考えられる。
  - ◇ 「この授業が何に役立つか理解出来ていない」→2020年度よりシラバスの改善が行われたが、そこに明記した教育目標が学生に伝わっていないこともある。また、教員としては最終的な目標に向かって授業を組み立てるが、課題に必死な学生にはそれが見えなくなることも少なくない。学生に教育目標や個々の課題の目的を伝えるなど、目的意識を伴った学習にする配慮が必要かもしれない。
  - ◇ 「全体的にあまり理解できませんでした」→そのような学生は一定数いると想定されるため、一人ひとり対応は困難である場合も多い。また、本人の授業時間中の取り組み方や予習・復習にも依存するだろう。これに関しては設問16において学生がどのように学習に取り組んでいるかを確認しながら、不足している学習方法や推奨される学習方法を個人または全体に向けて提案するなどの対応が考えられる。